

「こま」だったら、「遊び」のところから探します。

本日3校時に、3年の森田先生が、図書室で、「本を使って調べよう」という国語の授業を実践されました。

これは、中堅教員等資質向上研修（旧10年次研修）の一環の授業実践で、この研修趣旨にふさわしいチャレンジ的な授業で、とても面白かったです。

図書室で〇〇について調べたいとき、大半の児童は、直接的にその対象物・事の名前を基に本を探すでしょう。（たとえば、「こま」について調べたいときは、まずは「こま」という言葉を基に探す）

それだけでもある程度は見つかるでしょうが、この授業では、その対象を広げて考えてみると、もっとたくさんの本が見つかることを体験させるような授業でした。

授業の前半は、学校司書の竹田先生も登場して、日本十進分類法NDCの分類について知らせました。ここは3年生にはやや難しく、時間的にも長かったので、もう少しさらっと行ってよかったですかもしれませんね。

それに続く展開がとてもよかったです。

「こま」という、少し前に教科書で学んだおもちゃを例にして、言葉から想起する事柄のマッピングを行いました。

こまについて知っていることという発問に対し、大半の児童はこまの種類ばかり発表しましたが、その後、こまを作ったという話から「工作」、こまで遊ぶという話から「遊び」、日本の古くからの遊びという話から「歴史」や「世界」という他のキーワードを引き出しました。

そして、その後、直接の「こま」だけでなく、類推したキーワードを基に、多様な分類コーナーで本を探す体験をしました。

児童は、図書室の様々な場所から、こまについて書いてある本を見つけ出しました。ここにもあった、ここにもあったという歓声には私も驚きました。

活動の後、みんなで本を探すときのポイ

ントを話し合いました。

児童からは、「“こま”だったら、“遊び”のところから探します。」や「まず、探したいことを考えて、考えたやつから本を探します。」と、やや言葉足らずの発言ではありますが、授業の内容をしっかりと捉えた発言が出され、今日の授業の成果がしっかりと表れていました。

こんな授業は初めて見ました。指導案段階では、授業の意味についてやや疑問も感じていましたが、児童の姿を見て、どこかの段階で、このような授業も必要だと思いました。

児童の言葉調べ、事象調べに対するイメージが広がったのではないかと思います。そして、言葉そのものに対するイメージもずっと広がったのではないのでしょうか。

授業の最後に、見つけた本をそれぞれ元の位置に戻すとき、図書室内のいろんなど



ころに戻す児童の姿を見て、図書室の素晴らしさ、面白さを改め

て感じ、感動を覚えました。

図書館大会の開催を契機に、様々な「チャレンジ」がなされていることをとてもうれしく思います。忙しくはなりましたが、新しい視点が広がる機会と前向きに捉えていただいていることに感謝します。

大会まであと4ヶ月ですが、いろいろとチャレンジして、より子供のためになることを求めていきましょう。

森田先生、お疲れ様でした。チャレンジ的な授業は、周囲も学べるのがたくさんありますね。ありがとうございました。

